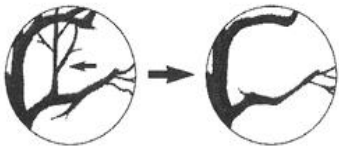


6 林 業

項 目	作 業 内 容
(1) 移植	(今月の作業のポイント) ○移植 ○せん定 10～11 月は気温の低下と共に樹木の樹液の移動が緩やかになるため、暖地性常緑樹以外の樹木については移植の適期となる。 また、来春に移植を考えている木では、根回しの適期となる。 ア 根回し（移植を予定している木の根の途中を人為的に傷け、その傷口付近から新しい細根を出させる作業） 移植する樹木のうち、幹の直径が 5 cm 以上のもの及び植付けて長年経っているものについては、移植実施の半年から 1 年前に根回しを実施しておく。根元径の 3～5 倍程度の円状に樹木周辺を掘り、大部分の根を切り、一部は皮を剥いでおく。これにより、急激な樹勢の減退を防ぎながら、新根の発生が促進され、活着がよくなる。 イ 掘り上げ（樹木を植え替える時、根を掘り下げる。土をつけたまま掘取った部分を「根鉢」という） 掘り上げは、根鉢を付けない場合、広さは幹の直径の 10 倍程度、深さは広さの 2 分の 1 程度、根鉢を付ける場合、広さは幹の直径の 5～6 倍程度、深さは広さの 3 分の 2 程度に掘り上げる。 移植時には根を切るのので、樹木の水分の吸水能力が低下するが、葉からの蒸散は通常時と同様になされるため、剪定により葉の数を減少させ、バランスをとる。 ウ 植え付け 径、深さとも根鉢の 1.5 倍以上の植え穴（写真 1）を掘り、元肥を施す。植え穴に樹木を入れるが、この時、根張りが見えるほど浅く植えると、地面付近にしっかりと根を張る。 植え穴の 3 分の 2 程度土を入れ、水をお汁粉状になるまでたっぷり注ぐ（水ぎめ、写真 2）。この際、細い棒でつつく等し、細根の間まで十分に土が入るようにする。ただし、ツツジ類など樹種によっては水のかわりに土を入れる土ぎめを実施するものもある。 その後、上部まで土を入れ、軽く踏みつける。周囲の土砂を盛り上げ、水鉢を作る。乾燥と霜による凍結を防ぐため、わら等で

項 目	作 業 内 容
	周辺の地面を覆う（マルチング）。支柱を建て（写真3）、固定した後、十分にかん水する。 エ 10～11月に移植すべき樹種 ボタン、ボケ等 オ 10～11月に移植できる樹種 ウバメガシ、カイヅカイブキ、クロガネモチ、コデマリ、オオデマリ、ゲッケイジュ、ニシキギ等  写真1 植え穴  写真2 水ぎめ  写真3 支柱設置 （2）せん定 10月は、一般的に常緑広葉樹や針葉樹のせん定の適期であり、最後の仕上げのせん定として、徒長している枝のみを切るようにする（図1）。各種生け垣の刈り込みは10月中に年内最終の刈り込みを行う。 ただし、コデマリやユキヤナギ等、10月に花芽が分化するものについては、実施しない。 また、落葉樹については、冬期が適期のため、11月以降の落葉後にせん定する。 ✕ 徒長枝 勢いが極端に強い枝で、まっすぐに長く伸びる。樹形を乱すおそれがあるので、不要な枝は切り取る。ただし、古くなった主枝のかわりに利用できるのも、よい位置のものは残して、先を軽く止める。   図1 徒長枝の状況 （一財）日本緑化センターのHPより

（作成 林業研究センター）